

医療対策と防災事業を継続推進

～魅力ある・誇れるまちづくりの実現へ～



◆プロフィール◆
石田進（いしだすすむ）
1958年（昭和33年）9月2日生まれ。63歳。東海大学
政治経済学部卒。波崎町議会議員・神栖市議会議員・県議会
議員を経て2017年12月から現職。趣味は映画鑑賞。座右の
銘は「一生懸命」。

市民の皆さまの命を守るために、医療対策と防災・減災対策に特に力を注いだ4年間だった。まず、茨城県内でも医師の少ない神栖市医師不足解決に取り組んだ。その結果、救急を担っていたいだいてある病院だけでも、医師数が17人増加した。市内の診療所も助成金を活用し、6件の誘致に成功した。また、救急搬送所用時間の短縮も実現した。救急隊と循環器医師を直結するホットラインを設置。救急搬送所用時間はこれまで2分かかっていたが、2018、19年は5分を切ることに成功している。

防災・減災対策としては津波・高潮対策を推進するとともに、排水対策として北公共埠頭の雨水幹線整備に取り組んでいる。波崎地域にも排水対策を講じなければいけない箇所が多くあるが、それでもこの4年間で随分解消したと考えている。

そのほか、新可燃ごみ処理施設の整備も無事にスタートした。教育施設のエアコン設置やトイレの洋式化などより良い教育環境の充実にも努めた。

■医療対策について
神栖市は、市民の命を守るために、神栖の名前の由来にもつながる病院の施設整備がよいよ始まる。病床数の確保を目指して増築を進めている。本年度に基盤整備も進めていく。

観光振興や賑わい創出

か小児科の誘致計画も進めているところ。

■防災・減災対策事業について
神栖市は、平均な土地なので昔から木崎、神栖、深芝、平泉などの一部市街地の冠水被害が大きくなっている。特に神栖警察署、神栖中央公園付近の冠水はひどいものだった。国補事業を実施しているが、排水整備市が主導権を持つ「やるんだ」という覚悟を見せなければいけない。1期目の4年間で雨水幹線整備を進めた結果、最近は道路が冠水したという声は聞かなくなつた。今後も整備を推進していく。

波崎地域の排水路整備は、20年に県と協議を行い、雨水幹線整備に関する覚書を締結した。その結果、雨水は県が、排水路は市が整備するという方針となつた。そして、利根川沿いの堤防整備も国に促進していく。今の高さだとちょっとした高潮でも乗り上げてしまう。19年の台風19号では多くの建物が浸水した。

そのような状況から、国土交通省と茨城県と神栖市で利根川下流域治水対策協議会を設立した。無

いに進する石田市長に、今後の施策や展望などを聞いた。

■1期目を振り返って

■2期目の抱負は

石田進神栖市長の2期目となる市政がスタートした。1期目の4年間で医療対策や防災対策など市民の命を守る施策を推進した石田市長。2期目も引き続き医療・防災に関する事業を進めながら、観光振興や賑わい創出を図るために、神栖市周辺の再整備にも取り組んでいく。魅力ある・誇れる神栖市を目指してまい進する石田市長に、今後の施策や展望などを聞いた。

済生会病院増築支援

これまでの4年間の市政運営は、市民の皆さまの信託をいただいたと思っていて。ここからさらに施策を前に進めていきたい。医療対策では、神栖済生会病院の増築や白十字総合病院の大規模なりューアルなどを市として支援していく。

防災対策では津波避難シミュレーションの結果から、津波により被災する可能性の高い避難困難地域が3地区あった。本市ではこれまで高台をつくることはなかつたが、津波からの避難が困難な地区には、高台の整備を検討したいと考えている。

そして、魅力あるまちづくりの計画を行つ予定。市民のため、整備の促進を要望していきたい。

■魅力あるまちづくり

東国三社のひとつである神栖神社は、近年参拝客も増えているが駐車場が少ないなどの課題がある。そこで、神栖地区の住民の皆さまの意見も聞きながら再整備を進め、魅力向上を図っている。昨年12月25日には神栖の森駐車場の供用を開始した。

2期目には参道やその周辺の賑わいづくりを実施する。神栖神社は鹿島神宮や香取神宮に比べてまだ知名度が低いが、その分伸びしがり、ほかにはない魅力にあふれている。豊かな地域資源を存分に活用したい。同時に神の池緑地の再整備も進められる。桜の名所であり市民の憩いの場所だが、老木も増えているので、ランニングステーションの整備も検討する。そしてスポーツの拠点となるような施設の整備を検討していく。特に茨城県内で会場となつた方々へ競技の拠点となるようになつた。

この2カ所は神栖の名前の由来となるつた方々へ競技の拠点となるので、魅力向上へ向けてスマスを入れていく。

■インフラ整備について

道路については、市中心市街地付近の国道が6車線化したこと、港滞は大きく緩和された。今後も、新たな津波避難ビルの指定や、避難の方向の変更などでも避難難所は解消できない地区について整備を進めていきたい。

一方で、鹿島開発から50年が経過し、上下水道の老朽化が進んでいます。1年でできることではないので、予算を確保して毎年少しずつ進めていきたい。

また、避難困難地域3カ所のうち2カ所は避難所がないように対応できそうだが、1カ所だけどうしても高台の避難所が必要となる地域があつたので、早期に整備を行いたいと考えている。

さまと協議している段階。避難困難地域となつた地区において新たな津波避難ビルの指定や、避難の方向の変更などでも避難難所は避難所がないように対応できそうだが、1カ所だけどうしても高台の避難所が必要となる地域があつたので、早期に整備を行いたいと考えている。

さまと協議している段階。避難困難地域となつた地区において新たな津波避難ビルの指定や、避難の方向の変更などでも避難難所は避難所がない